

**第 12 回圧力設備規格審議委員会 議事録**

1 日 時: 平成 22 年 6 月 30 日 (水) 14:00~17:00

2 場 所: 溶接学会会議室

3 出席者: (敬称略)

委員: 酒井委員長(TEC), 佐藤副委員長(日揮), 青木(東電), 内野(東ガス), 石毛(IHI), 能登(千代田), 田原(石連), 樋口(IHI テクノ), 寺田(神戸製鋼), 辻(東京電機大), 酒井(東大), 佐々木(労安研), 松永(東芝), 松田(三井化学), 加藤(日立), 木原(パスタリア), 安藤(住友金属)

原案作成者: 政友(住化)

事務局: 河野、田中(HPI)

以上 21 名(委員数 18 名)

**4 資料番号: 圧力設備規格審議 -12**

1 第 11 回圧力設備規格審議委員会 議事録案

2 委員名簿

3-1 HPIS Z107-2TR:2010 規格制定案に対する付議について

3-2 HPIS Z107-2TR:2010

4-1 HPIS Z107-4TR:2010 規格制定案に対する付議について

4-2 HPIS Z107-4TR:2010

5-1 HPIS C104:2010 規格改正案に対する付議について

5-2 HPIS C-104 の改訂

5-3 改訂序文

5-4 4. 許容引張応力の策定要領

5-5 5. 新規材料採用ガイドライン

5-6 表 2 非鉄金属材料の許容引張応力(続き) H3300 追加

5-7 表 1.1 鉄鋼材料の許容引張応力(JIS 規格のあるもの) 329 追加

5-8 表 1.1 鉄鋼材料の許容引張応力(JIS 規格のあるもの) SACM 追加

5-9 表 1.1 鉄鋼材料の許容引張応力(JIS 規格のあるもの) G4202 削除

5-10 表 1.1 鉄鋼材料の許容引張応力(JIS 規格のあるもの) P 番号変更

5-11 高強度銅管の HPISC-104 への新規採用経過

5-12 添付資料 1 許容応力設定申請書書式

5-13 添付資料 2 高強度銅管の許容応力設定申請書

5-14 添付資料 3 H3300:2009

5-15 添付資料 4 材料分科会の採用審議における質疑集

5-16 添付資料 5 材料規格分科会における許容引張応力の設定

5-17 表 トレンド法による許容応力値

5-18 新銅合金採用申請チェックリスト

6-1 JIS B8226「破裂板式安全装置」原案作成に関する報告

6-2 JIS B8226:0000 表紙、目次

## 5 議事

酒井委員長の司会のもと、出席委員数が委員会成立の定足数を満たしていることが確認され、以下の議事が進められた。また、議事に入る前に、新しく委員になられた方から自己紹介がなされた。

### 5.1 前回議事録の確認

資料 12-1 により、前回議事録案が読み上げられた。

書面投票の際に委員より提出されたコメントについての対応策は了承されているとのことだが、どのように見直したかが示されていない。見直し内容を確認できるように手続き方法を明確にする必要があるとの意見があった。一方、当時の委員会での結論では、対応策が編集上のものであり、委員長一任という処理で了承されたと見られる。委員会として内容の確認が必要であれば、再度レビューするとの議決をしておくことが必要との意見もあった。

今後、委員会としての対応を明確に決めておくとの委員長のコメントの後、議事録案について挙手による採決が行われ、新委員以外の全員により承認された。

### 5.2 HPIS Z107-2TR:2010「RBM ハンドブック第 2 部：減肉の損傷係数」および

HPIS Z107-4TR:2009「RBM ハンドブック第 4 部：その他の損傷係数」の審議について

#### 5.2.1 制定案の付議及び内容説明

事務局より資料番号 12 3 1、12 4 1 の付議書に基づいて説明の後、資料番号 12 3 2、12 4 2 に基づき RBM 委員会の政友委員より制定内容について説明された。

#### 5.2.2 審議及び結果

各委員より、編集上の不備、記載内容の意図が不明、間違い等が指摘された。その結果、各制定案とも全文見直しが必要とのこととなった。

各委員は、7 月 11 日までにコメントを事務局に提出し、本日指摘された内容と併せて RBM 委員会 原案作成 WG にて見直しと修正版の作成を行い、再審議することとなった。なお、審議の中で、制定案にない損傷についてのコメントがあったが、審議対象外とすることで了承された。

### 5.3 HPIS C104:2010「圧力容器及びボイラ用材料の許容応力表」改正案について

事務局より資料番号 12 5 1 の付議書に基づいて説明の後、資料番号 12 5 2 から 12 5 18 に基づき PVCS 委員会/材料規格分科会の木原主査より改正内容について説明された。

委員長より、改正点、改正案作成までの経緯について報告されているので、資料に基づいて改正案が提出された段階で、書面審議に諮りたいとの提案があり、了承された。

### 5.4 JIS B8226「破裂板式安全装置」原案作成についての報告

事務局より資料番号 12 6 1 で確認し、必要ならば次回に説明することとなった。

## 6 次回委員会予定について

委託による HPIS の原案が 9 月下旬から 10 月初旬に審議委員会に諮られる予定があり、委員長、事務局にて調整することで了承された。